

令和4年度 自己点検評価報告書（保健科学部）

全体的な状況と評価

保健科学部は、大学の理念・目的の基に、豊かな人間性と高度な専門知識・能力を備えた人材の育成を図るとともに、保健医療分野における教育・研究・地域貢献の拠点として中心的な役割を担い、保健医療の発展に寄与することを教育研究上の目的としている。この目的を実現するため、保健科学部教職員が一丸となって日々の教育・研究活動及び社会貢献活動に自立的かつ機動的に取り組んだ結果、大学および法人が示す第二期中期目標を順調に達成することができたと評価しており、現在では第三期中期目標の達成に取り組んでいる。また、大学基準に沿った教育についても概ね良好な状況で行えていると考えている。

本学は小規模大学のため、特に、学生支援、教育研究環境整備、社会貢献、大学運営等については、学部・研究科の別なく大学全体として取り組んでいる。そのため、本報告書では、教育活動・学生受け入れを中心に学部として自己点検評価した結果を報告する。なお、中期目標にそった全項目の自己点検評価の詳細は年度ごと、中期計画期間ごとの自己点検評価結果（業務実績報告書）に記している。

教育課程・学習成果

教育課程・学習成果に関する看護学科・臨床検査学科の自己点検評価は以下のとおりであるが、いずれの学科も、大学基準を満たした教育が展開できていると考えられる。一方で、学位授与方針にそった学習（学修）成果の可視化についての課題に取り組むために、令和4年度より全学的な教育に関する内部質保証を行う組織として教学マネジメント委員会をスタートさせ、同委員会を中心として学位プログラム単位としての学部（看護学科・臨床検査学科）の学習（学修）成果の可視化に取り組んでいる。今後は、これらの学習（学修）成果指標にもとづく客観的な評価をもとに、課題の明確化・改善を図るしくみを軌道に乗せ、充実させていく必要がある。

看護学科 自己点検報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ。

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい

2.3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

学科FD会議を毎年開催し、教育目標を踏まえ、教育課程が適切に編成され、実施されているかを検証している。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

初年次教育としては、大学生としての主体的な学び方や学習資源の活用方法等を獲得できるよう初学者ゼミや基礎ゼミを設けている。また、従来のライフステージによる対象者区分の見方だけでなく、地域包括ケアを見据えて対象者の生活形態等でもアセスメントできる能力を育成できるように、複数の看護領域のアセスメントを共有できる学習形態を取り入れ、看護アセスメントⅠ、看護アセスメントⅡ、看護アセスメントⅢを開講している。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

初年次教育で医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を図り、2年次からは、看護実践の根拠となる確かな知識修得や人間の多面的な理解が段階的にできるように、基礎から応用・発展へと学修が進むような専門科目の系統的な配置を工夫している。従来のライフステージによる対象者区分の見方だけでなく、地域包括ケアを見据えて対象者の生活形態等でもアセスメントできる能力を育成できるように、複数の看護領域のアセスメントを共有できる学習形態を取り入れ、看護アセスメントⅠ、看護アセスメントⅡ、看護アセスメントⅢを開講している。また、DPに示されている「グローバル化に対応できる能力」育成については、その要素を各種科目に配置するとともに、4年次通年の看護研究にてその能力育成を総括している。

3.3 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定するとともに、単位及びその修得について明示している。

3.4 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

毎年度、DP評価および授業評価アンケート結果をもとに、個々の授業科目の内容及び方法について見直しを行い、シラバスに授業科目の内容及び方法を明示している。

3.5 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

国における「大学における看護系人材養成の在り方検討会」でのモデルコアカリキュラムで求められている「グローバル化に対応できる能力」「地域包括ケアシステムに対応できる能力」「多様化・複雑化・個別化した対象をアセスメントする能力」を学生が修得できるように、学科のAP、CP、DPに位置付けたうえで、授業科目の位置づけを行っている。

3.6 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

入学後に早期から看護学への関心が向上するように、1年次前期から2年次後期にかけて基礎看護学を配置することで、1・2年次から看護の基盤を学修できるようにしている。続いて、人間の発達段階や健康レベル、看護を提供する場の特性の理解を深められるように、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、地域・在宅看護学

等が学修できるように設定されている。

2016（平成 28）年の国における「大学における看護系人材養成の在り方検討会」でのモデルコアカリキュラム案の審議を踏まえて、看護学科では2017（平成 29）年にカリキュラム学習会を開催した。学習会では、新カリキュラムに求められている「グローバル化に対応できる能力」「地域包括ケアシステムに対応できる能力」「多様化・複雑化・個別化した対象をアセスメントする能力」について理解を深めるとともに、学生がこれら 3 つの能力を育成するために必要な学習内容についてグループ討議の方式で検討した。検討結果は資料に整理した上で、学科の AP、CP、DP に反映することで、教育内容の検討と課程編成を行っている。

3.7 初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

1 年次前期に大学で学ぶための基本的な学習スキルや学習態度を具体的な演習（グループワーク）を通して修得する初学者ゼミ、1 年次後期に「人間を知る」「社会を知る」「自然を知る」の 3 領域における科学的思考の文章に親しみ、学問に臨む基礎的態度を養う「初学者ゼミ」を開講し、1 教員が 10 名程度の学生を指導する体制を整えている。

3.8 教養教育と専門教育の適切な配置ができていますか。

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

教養及び豊かな人間性の涵養と医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を目指し、教養科目を 1 年次に多く学修できるように配置している。併せて、看護学への関心を向上できるように、1 年次は教養科目との重なりが多くなり過ぎないように基礎看護学 5 科目を配置するに留め、2 年次から本格的に看護学が学修できる配置としている。

3.9 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

カリキュラム委員会から報告された看護学科のカリキュラム上の課題に対し、平成 29 年度 4 月に運営戦略会議（当時、「運営調整会議」）が、新カリキュラム作成プロジェクトチームを発足させ、協議を重ねて、令和 2 年度から新カリキュラムに移行した。プロジェクトチームには、運営戦略会議構成員の学部長をオブザーバーとし、運営戦略会議との連携がとれるようにしていた。最終的に新カリキュラム案は運営戦略会議の承認を経て教授会・教育研究審議会に報告した。令和 4 年度からは、教学マネジメント委員会が教育に関する内部質保証を担うこととなり、本報告書にて報告している。教学マネジメント委員会は、学科長がメンバーとなっており、そこで明らかになった課題を学科に持ち帰り、学科会、学科教授会で報告し、課題改善のための検討を実施している

3.10 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

看護学への関心を高めることと、保健医療福祉の多様な場における看護の対象の特性と看護職の活動の実際を知り、看護職の機能と役割と理解ができるように、1年次前期に基礎看護学実習Ⅰを配置し、様々な現場で従事する看護職の実体験を聴くとともに、将来の方向性を自身で考える機会を提供している。また、教育協力者や非常勤講師による具体的な看護実践を聞く機会や、県内における看護職就職ガイダンスを学内で提供している。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、自主学習情報を記載した授業計画の立案と提示、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価を行っている。また、授業の評価とFDについては、学生による授業評価や教員間のピア・レビューなどを取り入れている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように各講座内で確認しながら実施している。学期末に実施される授業評価アンケートの結果を各担当教員が精査して確認している。また、教員による相互参観授業を実施し、参観した教員は授業担当者に対し、フィードバックを行っている。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

学生の学修状況に応じて、DP等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを配布して周知している。特に近年は、コロナ対策にて対面学習からオンライン学習に変更になることが多かったが、その都度、学生に周知を行っている。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業形態にグループワークを取り入れ、多様な意見を聴き総括していく機会を多く設けている。また、学生が主体的に学修できるように、反転授業、グループによるシミュレーション教育やケースメソッド学習などを取り入れ、教員と学生間、学生同士でのコミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業時に事前課題、小テスト、ミニツツペーパー等を取り入れて、学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付け、学習の積み残しがないように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、入学式前に1年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DPの説明などについてガイダンスを実施している。また、在校生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

発話や具体的な質問に対して随時フィードバックを行い、演習や実習での記録に対しては、口頭もしくはコメント付記によって、学生の学びのフィードバックを行っている。また、各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間外にどのような学習をするかも明示して、予習・復習の指導を行っている。

4.8 授業形態に配慮した1授業あたりの学生数を配慮していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業内容や形態に応じて、学習理解を確保できるように、ゼミ形式や学年定員半数ずつの交互授業などを導入し、学生数に配慮している。

4.9 各学科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業内外の学生の学習を活性化し効果的に行うために実施した内容と実施状況について、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長が、同組織に学科の状況を直接報告し必要な支援や指示を受けている。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

各科目の成績評価は担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価が行われている。

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、他大学等での既修得単位については、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行っている。

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置は講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価が行われている。また、教授会において、学科別の GPA 集計表が配付され、各教員はそれに基づいて自分の担当授業の成績評価を検証している。

5.4 卒業要件を明示していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、卒業要件を口頭でもガイダンスを行っている。

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、成績評価及び単位認定を適切に行うための措置について、教務委員会での審議を経るとともに、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告している。

5.6 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、学位授与を適切に行うための措置について、教務委員会での審議を経るとともに、教学マネジメント委員会に本報告書にて報告している。

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会において設定された指標（新入生アンケート、PROG 調査、学位プログラムとしての単位取得状況、授業評価アンケート結果、GPA 評価、DP アンケート、国家試験合格率およびカリキュラム・学習環境等評価アンケートの結果等を学習成果測定の指標として活用している。加えて、各科目で担当教員がそれぞれの専門性を用い、分野の特性に応じた学習成果の測定を行っている。また、看護研究では、卒業論文を課しており、それによって全学科的に4年間の学習成果を測定・検証している。

6.2 アセスメント・テストをしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、2021年度までは1年次と3年次、2022年度からは3年次にPROG調査を実施し、DP項目に対応した学生のリテラシー・コンピテンシーの状況を評価することで学習状況を把握し、その結果をもとに授業改善等を行っている。

6.3 ルーブリックを活用した測定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

演習や実習、4年次の看護研究等でルーブリックを取り入れ、評価の観点を明確にした上で、学生と教員が相互に評価の達成度を確認し、評価の公平性保持に努めることで、間接的ではあるがDPの取得状況や学習成果を把握・評価している。

6.4 学習成果の測定を目的とした学生調査をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

FD 委員会・教学マネジメント委員会が取りまとめた DP アンケート(授業・年間・卒業時の各単位・)を学習成果の測定を目的とした学生調査として用いている。また、学科独自の取り組みとして実習ポートフォリオや看護技術チェックノートを用いた看護技術経験項目の点検と評価、看護師・保健師国家試験の解答状況評価を行っている。これらの評価については、活用頻度等や経験達成度、解答状況を数量的に算出した後、学科会や学科 FD の機会を通じて共有し、学習内容等の見直しにつなげている。

6.5 卒業生、就職先への意見聴取をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

就職先については実習や研修等の機会を活用して施設の指導者や管理者と本学の卒業生の学習状況および課題や就職後の成長について意見交換を行い、そこで得られた現場での意見等について学科会等で共有し教育への還元を行っている。既卒生を対象とした DP 取得状況についてのアンケートは行えておらず、今後検討を進めるが、ホームカミングデーなどを通じた、既卒生の学びの状況や成長についての情報収集や共有は引き続き行っていきたい。

6.6 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会が学習成果の把握及び評価に必要なデータの取得分析を行って学科の活動を支援している。また、教学マネジメント委員会から提供を受けた情報に加え、学科独自に行った看護研究等でのループリクック評価や国家試験問題回答状況などの評価について、学科会や学科FDにて共有・評価をしている。また、学科長が全学内部質保証推進組織(運営戦略会議、教学マネジメント委員会)の構成員であるため、同組織で学科の状況等を直接報告し、学科に必要な支援や指示を受けている。

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、教育成果の検証は、各学期末に行われる学生による授業評価アンケート結果に基づき、各授業で学生がその授業をどのように評価したかを、担当教員が確認している。また、全学的な FD 研修会や学科 FD 研修会等で学習成果の測定法に

ついて情報交換を実施している。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、GPA 評価および授業評価アンケート結果に基づき、各担当教員主導で授業改善・向上に努めている。また、学科独自の取組みとして、学生の学習効果に貢献した授業方法等を学科 FD として共有する機会を設けている。

(2) 長所・特色

全学的な取り組みのもと、看護学科のディプロマ・ポリシーを適切に細分化し、それに応じた体系的なカリキュラムツリーとカリキュラムマップを作成している。学習成果の到達がより正確に把握可能となる基礎資料が整っている。また、初年度教育から積み上げ型の学習を意識しており、教育の質向上に向けて学科会や学科 FD 等にて、教員間での意見交換の場を多く設けている

(3) 課題・問題点

GPA 評価からの学生評価は全般的に達成されていたが、新カリキュラム (2 カリキュラム) 1 年生が卒業を迎える 2023 年度にて、ディプロマ・ポリシーからみた学習効果や体系的なカリキュラムツリー・マップの学生への効果などについてはさらなる分析が必要である。また、コロナ対策下においてオンライン授業を積極的に活用してきたが、対面授業と比較したメリット・デメリットの分析については今後検討していく必要がある。

臨床検査学科 自己点検報告書

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ。

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1 学科として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい

2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

2.1 教育課程の体系、教育内容を備えた教育課程の編成・実施方針を設定していますか。

はい

2.2 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。

はい

2.3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性の検証プロセスを具体的に説明してください。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

学科会において、教育目標を踏まえ、教育課程が適切に編成され、実施されているかを検証している。

3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.1 学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

初年次教育としては、大学生としての主体的な学び方や学習資源の活用方法等を獲得できるよう初学者ゼミや基礎ゼミを設けている。それに加え、医療を志す学生の初年次教育として、医療概論、臨床検査学概論を開講している。

3.2 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

初年次教育で医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を図り、2年次からは、臨床検査学の基礎となる確かな知識修得や技術の理解が段階的にできるように、基礎から応用・発展へと学修が進むような専門科目の系統的な配

置を工夫している。また、DP に示されている「医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的な能力」育成するために医学検査セミナーや病院以外の施設における臨地実習Ⅱを開講している。また食品衛生監視員・管理者任用資格および甲種危険物取扱者の受験資格も得られるように、関連科目を配置している。更に臨床検査学の応用・発展として4年次通年の医学検査研究にてその能力育成を総括している。

3.3 単位制度の趣旨に沿った単位の設定がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間として単位を設定するとともに、単位及びその修得について明示している。

3.4 個々の授業科目の内容及び方法が設定されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

毎年度、DP 評価および授業評価アンケート結果をもとに、個々の授業科目の内容及び方法について見直しを行い、シラバスに授業科目の内容及び方法を明示している。

3.5 授業科目の位置づけ（必修、選択等）が適切ですか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

国における「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」で示されている国民の医療へのニーズの増大と多様化、チーム医療の推進による業務の拡大等により臨床検査技師の求められる役割や知識等の変化に対応できる力を学生が修得できるように、学科のAP、CP、DPに則って、授業科目の位置づけを行っている。

3.6 各学位課程にふさわしい教育内容の設定がなされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

入学後に早期から臨床検査学への関心が向上するように1年前期から2年次後期にかけて臨床検査概論や検査の基礎に関する科目を配置することで、1・2年次から臨床検査学の基盤を学修できるようにしている。続いて、臨床検査学の知識・技術のほか、医療安全や検査管理等について専門的な理解を深められるように、形態検査学、生体試料分析学、感染・生体防御検査学、生理機能検査学、検査総合管理学等が学修できるように設定されている。

2021（R3）年3月に臨床検査技師学校養成所指定規則の一部改正（タスクシフト/シェアに関連する臨床検査技師等に関する法律の改正も含む）する省令の公布があり、2022年4月に新カリキュラム改正の対応できるよう、2021（令和3）年度に臨床検査学科カリキ

キュラム検討委員会で検討および協議を行った。主な改正点である、「臨地実習の充実」に伴う単位増や臨地実習到達度評価の実施内容の共有、更に実習施設の見直しのほか、タスクシフト/シェアに関連する新規項目の追加内容に関して確認を行い学科会で共有した。また、新カリキュラムに求められている「チーム医療の推進による臨床検査技師の役割の拡大や検査機器の高度化、臨床検査技師の取り巻く環境の変化」に対応するための教育課程編成の必要性について理解を深めるとともに、これからの学生がこれらの能力を育成するために必要な指導内容について検討した。検討結果は、学科の AP、CP、DP との関連を確認しながら教育内容の検討と課程編成を行っている。

3.7 初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

1 年次前期に大学で学ぶための基本的な学習スキルや学習態度を具体的な演習（グループワーク）を通して修得する初学者ゼミ、1 年次後期に「人間を知る」「社会を知る」「自然を知る」の 3 領域における科学的思考の文章に親しみ、学問に臨む基礎的態度を養う「初学者ゼミ」を開講し、1 教員が 10 名程度の学生を指導する体制を整えている。さらに、入学生間の学力の 3 要素の隔たりを軽減し、高大接続をスムーズに行うため、自然科学系の分野において、基礎科学 A（生物）、B（化学）、C（物理）の自由科目を開講している。

3.8 教養教育と専門教育の適切な配置ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教養及び豊かな人間性の涵養と医療職として求められる人間理解とコミュニケーション能力、課題探究力の育成を目指し、教養科目を 1 年次に多く学修できるように配置している。併せて、臨床検査学への関心を向上できるように、1 年次は教養科目との重なりが多くなり過ぎないように検査と基礎となる科目 8 科目を配置するに留め、2 年次から本格的に臨床検査学が学修できる配置としている。

3.9 教育課程の編成における全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

3.6 に記載した令和 4 年のカリキュラム改正に対して、運営戦略会議（当時、「運営調整会議」）が、学科長を中心とする新カリキュラム作成プロジェクトチームを発足させ、協議を重ねて、令和 4 年度から新カリキュラムに移行した。プロジェクトチームには、運営戦略会議構成員の学部長をオブザーバーとし、運営戦略会議との連携がとれるようにしていた。最終的に新カリキュラム案は運営戦略会議の承認を経て教授会・教育研究審議会に報告した。令和 4 年度からは、教学マネジメント委員会が教育に関する内部質保証を担うこととなり、本報告書にて報告している。教学マネジメント委員会は、学科長がメ

ンバーとなっており、そこで明らかになった課題を学科に持ち帰り、学科会、学科教授会で報告し、課題改善のための検討を実施している。また、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

3.10 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

臨床検査学への関心を高めることと、臨床検査技師の多様な活躍の場の実際を知るために医学セミナーを配置し、最新の医学研究のほか、非常勤講師による多様な現場で活躍する臨床検査技師の講義を聞く機会を設けている。また、様々な現場に従事する臨床検査技師を知る機会として、臨地実習Ⅰ・Ⅲは中規模病院や大規模病院で働く臨床検査技師について、更に臨地実習Ⅱでは、病院以外の健診施設や研究所で役割を理解できるよう、多くの臨地実習施設を配置している。また、ホームカミングデーや大学で開催している就職セミナーにおいて、卒業生の活躍や進路選択を聞く機会を提供し、学生自身の将来像を早期から描けるようにしている。

4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

4.1 各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置がされていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに倣い、自主学習情報を記載した授業計画の立案と提示、自主学習を促す授業の実施、シラバスで明示した授業目標達成を図る成績評価を行っている。また、授業の評価とFDについては、学生による授業評価や教員間のピア・レビューなどを取り入れている。

4.2 シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）についての措置を講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教務委員会によって設定されたシラバス内容を遵守するとともに、授業内容とシラバスとの齟齬がないように学科内で確認しながら実施している。学期末に実施される授業評価アンケートの結果を各担当教員が精査して確認している。また、教員による相互参観授業を実施し、参観した教員は授業担当者に対し、フィードバックを行っている。

4.3 授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

学生の学修状況に応じて、DP 等が達成できるように授業の内容や方法を変更する場合は、必ず学生に対して改訂したシラバスを配布して周知している。特に近年は、コロナ対策にて対面学習からオンライン学習に変更になることが多かったが、その都度、学生に周知を行っている。

4.4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法が講じられていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

医学検査診断学Ⅰ・Ⅱ等の科目では授業形態にグループワーク等も授業中に積極的に参加できる機会を多く設けている。また、学生が主体的に学修できるように、実習では、事前学習課題や予習内容を具体的に提示し、グループによる実習課題を取り組んだり、分析結果についての考察を教員と学生間で行ったり、コミュニケーションを図りながら学習できるようにしている。

4.5 学習の進捗と学生の理解度の確認をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

適切に学習が進捗するように授業計画を立て、各授業時に事前課題、小テスト、レポート等を取り入れて、学生の理解度の確認を行っている。また、学生からは随時質問を受け付け、学習の積み残しがないように対応している。

4.6 授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに倣い、入学式前に1年次生対象のオリエンテーションを行い、大学での学び、カリキュラムの特徴や成り立ち、DPの説明などについてガイダンスを実施している。また、在校生による学習時間の使い方などの紹介を行い、具体的にイメージしやすいように支援を行っている。また、学年進行に伴い、単位取得困難な学生や成績不良者はクラス顧問の教員が中心となり、個別の履修指導および学習支援を行っている。

4.7 授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

学生の意見に基づいて、随時フィードバックを行い、演習や実習でのレポート等に対しては、口頭もしくはコメント付記によって、学生の学びのフィードバックを行っている。また、各講義に関しては、シラバスに予習および復習に必要な標準時間を示し、授業時間

外にどのような学習をするかも明示して、予習・復習の指導を行っている。

4.8 授業形態に配慮した1授業あたりの学生数を配慮していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

1学年25名程度と少人数であるため配慮する場面は少ないものの、特に演習や実習等、授業内容や形態に応じてゼミ形式や6-7人単位のグループで指導するなど導入し、学習理解を確保できるよう学生数に配慮している。

4.9 各学科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）ができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

授業内外の学生の学習を活性化し効果的に行うために実施した内容と実施状況について、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

5.1 単位制度の趣旨に基づく単位認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

各科目の成績評価は担当教員の責任で行われている。成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価が行われている。

5.2 既修得単位等の適切な認定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに倣い、他大学等での既修得単位については、科目責任者や教務委員会による審議のもと、本学科の学習目的を達成している場合は認定を行っている。

5.3 成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置は講じていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに倣い、成績評価の方法と基準はシラバスに明示されており、それらに従って講義や演習など授業形態に応じて試験やレポートなどの結果で成績評価が行われている。また、教授会において、学科別のGPA集計表が配付され、各教員はそれに基づ

いて自分の担当授業の成績評価を検証している。

5.4 卒業要件を明示していますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに倣い、各学年次の開始時に学生生活の手引きを学生に配布し、卒業要件を口頭でもガイダンスを行っている。

5.5 成績評価及び単位認定に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに添って、成績評価及び単位認定を適切に行うための措置について、教務委員会の審議を経るとともに、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

5.6 学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わりができていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的な取り組みに倣い、成績評価及び単位認定を適切に行うための措置、学位授与を適切に行うための措置について、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

6.1 各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

教学マネジメント委員会において設定された学位プログラムとしての単位取得状況、国家試験合格率、GPA 評価、DP アンケートおよび授業評価アンケート結果に加えて、各科目で担当教員がそれぞれの専門性を用い、分野の特性に応じた学習成果の測定を行っている。また、病院や病院以外での臨地実習においては、実習後の発表会による振り返りを行い、医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野に貢献ができる基礎的能力の評価を行っている。医学検査研究では、発表会および卒業論文を課しており、それによって全学的に4年間の学習成果を測定・検証できている。

6.2 アセスメント・テストをしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

臨床検査学科では、全学的に実施している DP アンケート（各授業科目・年間・卒業時）や単位取得率、学年ごとの GPA の平均、関連 DP 科目の GPA を分析し、DP の取得を把握している。これらの結果は、全学的な取り組みに倣い、PROG テストを実施した学生のリテラシーとコンピテンシーの結果でも評価することができるため、これをもとに授業改善等を行っている。

6.3 ルーブリックを活用した測定をしていますか。

B: 効果的に取り組む必要がある。

臨床検査学科では学科全体でルーブリックを取り入れた評価や取り組みについて、教員が各々取り組んでいるのみで、学科全体の実施率の把握や方針はできていない。その代わりに、間接的に DP アンケート（各授業科目・年間・卒業時）結果により学習成果を見ている。DP に基づいた教育の在り方や体制について学科会で議論を行い、評価の観点を明確にした上で、学生と教員が相互に評価の達成度を確認し、評価の公平性保持に努めるために、今後、学科全体でルーブリック評価の導入について検討する必要がある。

6.4 学習成果の測定を目的とした学生調査をしていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

臨床検査学科では、全学的に実施している DP アンケート（各授業科目・年間・卒業時）を実施し、学習効果の測定を把握している。また、学科独自の取組みとして3年次の終了時に、学科内で作成した模擬試験を実施し、学生ごとの学習成果を分析している。このような試験は、4年前期に実施される長期の臨地実習前、臨地実習終了後にも実施し、学生の学習成果を継続的に測定・評価している。これらの結果は、学習指導に資するデータとして学科内で共有している。

6.5 卒業生、就職先への意見聴取をしていますか。

B: 今後、取り組む必要がある。

実習等で就職先と密に関わり、実習打ち合わせや実習施設連絡会議等の場で得られた現場での意見等について学科会等で共有している。尚、卒業生に対する DP アンケートについては、これまで実施しておらず、今後取り組む必要がある。ホームカミングデーなどを通じた、既卒生の学びの状況や成長についての情報収集や共有は引き続き行っていく。

6.6 学習成果の把握及び評価の取り組みに対する全学内部質保証推進組織等の関わりがで

きていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

全学的に実施している各授業科目および年間並びに卒業時における DP アンケートや単位取得率、GPA の平均を分析し、学科全体で DP の取得状況について共有している。臨床検査学科では、国試合格率 100%達成するため、学生の特性に依じた指導法や学習成果をあげるための科目間連携の検討、またその効果を測定するための適切な指標の設定を行うことや、学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発状況等について、運営戦略会議、教学マネジメント委員会の構成員である学科長から、同組織に学科の状況を直接報告し、必要な支援を得ている。

7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

7.1 学習成果の測定結果を適切に活用し、適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

臨床検査学科では、全学的な取り組みに倣い、教育成果の検証は、各学期末に行われる学生による授業評価アンケート結果に基づき、各授業で学生がその授業をどのように評価したかを、担当教員が確認している。また、全学的な FD 研修会や学科会等で学習成果の測定法について情報交換を実施している。

7.2 点検・評価結果に基づく改善・向上を行っていますか。

A: 従来通り効果的に取り組むことができた

臨床検査学科では、全学的な取り組みに倣い、GPA 評価および授業評価アンケート結果に基づき、各担当教員主導で授業改善・向上に努めている。また、令和 3 年度の国家試験合格率が低かったことを踏まえて、学科独自の取組みとして、学生の単位取得状況や学習態度の情報共有を行って早期から対策するとともに、適切な学習効果に貢献した授業方法等を学科会で共有する機会を設けている。

(2) 長所・特色

全学的な取り組みのもと、臨床検査学科のディプロマ・ポリシーを適切に細分化し、それに依じた体系的なカリキュラムツリーとカリキュラムマップを作成している。学習成果の到達がより正確に把握可能となる基礎資料が整っている。また、初年度教育から積み上げ型の学習を意識しており、教育の質向上に向けて学科会等にて、教員間での意見交換の場を多く設けている

(3) 課題・問題点

GPA 評価からの学生評価は全般的に達成されていたが、2023 年度には2カリが完成年度を迎えることから、ディプロマ・ポリシーからみた学習効果や体系的なカリキュラムツリー・マップの学生への効果などについてはさらなる分析が必要である。さらに、臨床検査学の専門分野について大幅な改正となった令和4年度からの新カリキュラム(4カリ)はスタートしたばかりであるため、今後の形成的評価を積み重ねていく必要がある。また、コロナ禍においてオンライン授業を積極的に活用してきたが、対面授業と比較したメリット・デメリットの分析については今後検討していく必要がある。

学生の受け入れ

看護学科・臨床検査学科いずれも学生の受け入れ方針に従って公正な入試制度の下に学生の受け入れを行っている。令和4年度の学校推薦型選抜については、出願倍率3.3倍(看護学科3.3倍 臨床検査学科3.1倍)で、3倍以上の倍率を維持した。一般選抜前期日程は、出願倍率2.8倍(看護学科3.0倍、臨床検査学科2.3倍)と前年度から0.2ポイント上昇した。学部全体・看護学科・臨床検査学科いずれも、入学定員充足率、収容定員充足率は大学基準を満たしている。

学生募集については来学型及びオンライン中継型のオープンキャンパス(年4回～5回)の開催や高等学校訪問及び出張講義、高校教員を対象とした大学説明会の開催など学生募集を含めた広報活動を積極的に行っている。

入試制度や選抜の評価については全学的な組織である入試委員会等を中心に評価が行われているが、看護学科、臨床検査学科共に国家試験の合格率が概ね高いレベルで維持されていることは、本学の卒業生による学位授与方針の達成に合致した学生の受け入れ方針に従った選抜が継続的に出来ている状況を間接的に表していると考えている。今後はこれを客観的に検証していくことが課題である。

教育研究環境等整備・学生支援・社会貢献・大学運営

冒頭に述べたとおり、本学は1学部・1研究科でありほとんどの教員が兼任、教育研究環境も共用しているため、学部単独ではなく、学部と研究科を一体とした大学レベルにおいて学内組織が円滑に連携を図りながら、教育研究環境等の整備や学生支援・社会貢献・大学運営を行っている。理事長を中心とする計画的かつ機動的な運営が図られ、外部資金の獲得に努めるとともに、経費削減等による余剰金を目的積立金として老朽化施設の改修や教育・研究機器の整備などに充てられ、必要な経費の効率的、効果的な執行を図ることができている。

教育研究環境等の整備においては、第二期中期目標期間に目指した自己教育力の向上に

向け、ICT環境の整備やアクティブ・ラーニングのための施設の改修、図書館機能の充実などに取り組んだ。また、教員の研究環境の整備ではTAや実習補助者の雇用、職位ごとに決められた研究費の配分の他に、学内での競争的資金である教育研究助成費に両学科教員から毎年10件前後の申請があり、科学研究費補助金獲得への基盤となっている。教員の研究への取り組みは科学研究費補助金の採択件数の増加に現れ、年々成果を挙げている。

学生支援では、学生委員会が主導する全学的な学修支援・生活支援・就職支援等に加えて、学部ではクラス顧問を中心に個別指導・相談に対応し、また、国家試験対策委員を設け、模擬試験の実施や必要に応じて学生が苦手とする科目の補習授業を行うなど、小規模校の特色を活かしてきめ細やかに対応している。

社会貢献では、本学の社会連携・社会貢献に関する方針に従い、地域交流センターが窓口となって全教職員がそれぞれの専門性も活かしながら取り組んでいる。具体的な自己点検。評価報告は、毎年の「地域交流センター報告書」に記している。

質の向上に向けた取り組み

教育、学生支援、研究、社会貢献については、概ね順調に進行し、一部を除く高い国家試験合格率の維持、就職決定率100%を堅持したほか、学内競争的研究費の一定額確保及び科学研究費補助金等の新規採択による研究の活性化、砥部町との連携協定締結による地域住民への貢献、保健福祉関係職研修等への講師派遣の実施、一般県民への公開講座、出張講座などの社会貢献、コロナ禍に関連する専門職派遣など、多くの面で質の向上を図ることができている。特に特徴ある取り組みとして以下のような取り組みを行った。

- ・カリキュラム改正時に、各学科の卒業時の学生像の見直しを実施
- ・令和元年度より、自己教育力の評価指標の一つとして、授業以外の自己学習時間と学習に取り組む態度について調査を実施
- ・コロナ禍で臨地実習ができなかったことによる技術経験の到達度に係る課題に対応するために作成した教育プランが、文部科学省の「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に選定
- ・コロナ禍で臨地実習が困難な時は、オンデマンド型学習支援システム、遠隔会議システムによるインターネットを利用した教材の配信、DVDや教育用シミュレーターを活用したリアルな状況設定による学内演習を実施・実習協力施設の認定看護師や保健師、精神保健福祉士などの実習指導者及びピアサポーターや当事者を教育協力者とし、講義や遠隔会議システムによる交流を依頼し、実習目標を補完
- ・共通教育科目、専門基礎科目の両学科合同授業の実施、基礎ゼミ等で両学科の学生構成によるグループワークの実施
- ・少人数教育の実施、上級生との交流機会の設定